

平成30年度 第2回 館山市子ども・子育て会議 要録

1	委員会名	館山市子ども・子育て会議
2	日時	平成31年3月19日(水) 14:00~15:30
3	会場	市役所2号館2階会議室
4	出席者	石渡委員長、押元副委員長、齋藤委員、新藤委員、内田委員、菊井委員 越智委員、中村委員、栗原委員、庄司委員、鈴木委員 (欠席者) 安藤委員、山崎委員
5	市側出席者	(こども課) 課長、副課長、幼保係長 (株式会社ぎょうせい) 2名
6	会議次第	1 開 会 2 議 事 (1) 「子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査」の集計状況について (2) 質疑・意見交換 (3) その他 3 閉 会

◆ 議事

(1) 「子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査」の集計状況について
株式会社ぎょうせいより、「子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査」の集計状況について、配布資料「館山市第2期子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査結果報告 速報版」を用いて説明。

(2) 質疑・意見交換

■ 「学童クラブ」について(資料6~7頁)

(菊井委員) 学童クラブは、春から夏休みの繁盛期は利用する人が多いというが、繁忙期とそうでないときとで利用料金に差はあるのか。同じ金額で預かっているのか。

(副課長) 現状としては、通常学校がある月は月額1万円、8月のように朝から夕方まで預かる場合は長時間になるので、月額1万5千円というような料金設定をしている。

(菊井委員) 利用人数が減る時期の利用料を下げないのか。もし、少し下げたとしたら引き続き預ける人も出てくるかもしれない。

(副課長) 夏休みに利用したくて申し込まれる方が多いが、夏休みが終わってしまうと利用者が減る。おそらく、就労しているお母さんの帰宅時間がそんなに遅くないため、子どもが帰ってきてすぐにお母さんも帰って来る状況で、実は必要がなかったということが考えられる。そのため、利用料を安くしても、そこまで利用者数は変わらないだろうと思っている。利用者数を増やしたいわけではなく、保護者の就労の支援という視点でこの事業を展開している。

(菊井委員) 親が子どもと一緒にいるのが一番いいと思う。ただ、学童クラブを運営していくならば、あまりにも利用状況に開きがあるのはどうかと思った。

(副課長) 9月に利用者のほとんどが辞めてしまうわけではなく、夏休み以降はおおむね8割の入所率で推移する。運営状況としてはそこまで悪くないと認識している。

(菊井委員) それで成り立っていけばある程度はよい。私が子どもをみていた経験からすると、子どもは仲間をほしがる。小さいうちから集団の中で友達と過ごすことが喜ばしいことらしく、親が早く迎えに行くのを嫌がっていた記憶がある。今は、兄弟姉妹の人数が少ないし、子どもの人数が少ない。都合のよいときだけ子どもを預けるのではなくて、こういうことがうまく平らにいけばよいと思う。これは親の仕事、つまり企業のこととも関係してくるのではないかとも思う。子どもだけではなくて、親同士の交流の場にもなったら、プラスになるのではないかと思う。

(齋藤委員) 学童クラブについては、保護者から夏休みの問題をよく耳にする。学童クラブ以外で、どこか受け皿になり得るかという点と、館山市だとファミリー・サポート・センターをもっと活用できたらよいが、20時間で1万5千円ぐらいになってしまい、経済的な負担が大きいと思う。核家族も多く、祖父母と同居していない家族も増えているので、これからもっとニーズは高まっていくことが考えられる。そのため、仕事をすることを諦めてしまうお母さん方も多いと思う。それは子育てに限らず、市の経済にとってもよくないのではないか。

自由意見に小学生の居場所づくりについての意見があったが、切実な意見だと思う。夏休みに限らず、放課後にも子どもの居場所があったらいいな

と思っている保護者は多い。今、公民館では将棋大会など色々なイベントをやっているのですが、そこに子守りを託すというわけではないが、そんな場所もあるということを知らせるだけでも安心する人もいるのではないかと。元からあるものをうまく活用ができればいいと思う。

放課後におじいちゃん、おばあちゃんとの交流ができればいいなという意見があったということだが、例えばコミュニティセンターの空き部屋について、曜日や時間を指定して開放し、子どもが来て宿題をしてもいい、お茶を飲んでもいい、おじいちゃん、おばあちゃんが勉強も教えてくれるなど、どんな世代でも居場所になるような取組が現実になればいいと思う。ただ、それがシステム化すると続かないかもしれない。

ファミリー・サポート・センターの空き状況がリアルタイムで分かればいいといった意見があったということだが、生身の人間がやっているのだからなかなか難しい。

(課長) 行政が介入すると、学童クラブのようにスタッフを配置し、安心して過ごせるように、事故も起こさないように、といった安全性が求められる。公助の部分で、どこまで手を出せるか。確かに場所はあるが、こうしたことを踏まえると、どこが事業主体とするかが難しい問題である。

(菊井委員) 学童クラブの状況については、すべての保護者に内容を知らせる状況になっているのか。

(副課長) 2月の入学説明会で知らせている。ただ、2月では遅いと言われたので、12月に1次申し込み、2月に2次申し込みの2段階で受けている。

(菊井委員) 資料では、広報を見ている人が一番多いようだから、広報に色んなことを早めに載せるべきではないか。

■ 「子どもが病気のときの対応」について（資料 24・45 頁）

(押元委員) ベビーシッターを利用した方がいるが、市としてはベビーシッターが何人いるか把握しているのか。

(課長) 把握はしていない。国の基準に合わせた場合には、ある程度研修を行ったりする必要はあるが、そうではない方まで含めると分からない。

- (中村委員) お子さんの具合の悪いときは、何ととっても母親が見てあげるのが一番だと思う。しかし、職場等の都合で来られないときもある。それでもやはり、お子さんの具合の悪いときには、2日だけでも看病し、それでもだめなときには誰かに相談するのが一番ではないかと思う。
- (課長) こども課は、「子育て支援」の課であって、働いている保護者が困らないように支援をする一方で、果たしてその支援が、子どもの立場から見て、子どものためになるのかは常に悩ましいことである。
- (菊井委員) 看護師さんで、もう働けないけど、一時的であればお役に立ちたいという人を登録しておく制度などはあるのか。そういうシステムがあれば、家庭も安定するし、病院も人件費がそれほどかからないのではないか。
- (委員長) ファミリー・サポート・センターに資格を持った会員がいることもあるが、結果的なものであり、資格を持っていることを条件に人を求めてはいない。
- (課長) 資格を持っている方については医療行為はできると思われるが、その場合、誰が責任を持つかという問題が出てくる。
- (菊井委員) 確かに、一人で子どもを看ないといけないし、他人の子どもだから何かあった場合に責任問題が出てくる。
- (委員長) 保育士や看護師など、資格を持っていて、働いていない方は多いと聞く。
- (課長) このような事業について、きちんとした国の基準ができれば、素晴らしいと思う。
- (菊井委員) 理想かもしれないが、館山市でそういう取組ができたとしたら、館山独自のシステムよいと思う。

■ 「元気な広場」について（資料 28 頁）

（課長） 元気な広場の利用者が減ってきているというが、利用者の声を聞くと、イオンに「赤ちゃんの駅」があったり、ガソリンスタンドにカフェがあったりと、やることのついでに子どもを連れて寄れるところがだいぶ増えた。選択肢が増えたということはありがたいことで、まち全体が使いやすくなっていると言える。

（委員長） 元気な広場は、子育て支援の場なので、子育て支援に関する情報はできるだけ徹底して掲示しようとしている。イオンのことやNPOのこと、イベントなどの情報もたくさんある。利用者にとって便利な支援の場になると思う。

（齋藤委員） 「利用していない理由」のところ、「その他」が 17.7%と割合が多いが、何の理由が多いのか。

（ぎょうせい） お示ししているのは速報版であるので、最終的には掲載するようにする。

（齋藤委員） 私も元気な広場を利用していたので、これからも子どもがいっぱい来てくれたら嬉しいと思う。一番上の子どもを育てていたときは、元気な広場かイオンに行くかしかなかったが、そのときと比べると、バッドアスコーヒーや渚の駅など色々できて、時代が変化していった。大変よいことだと思った。

■ ご意見や報告等

（越智委員） 4月28日に「第1回 そだてタウン」を開催する。協賛は館山市と観光協会、教育委員会など。この日だけはここに来れば、すべての情報が手に入るようになっている。測定、薬の相談のほか、野菜ソムリエを招いたり、おもちゃ病院や移動図書館にも来てもらったりする。業者を入れず、我々の完全手作りである。「買い物のついでに、このようなイベントに参加できると敷居が高くなく、役所にわざわざ行くよりも気軽に相談しやすくてよい」との声をよくいただくので、今後もこういうことをやっていきたいと思っている。一切使用料をいただかず、場所の提供は喜んでするので、何かあればやっていきたい。

- (菊井委員) 関係ないかもしれないが、アンケートを見ると、防災、防犯にかなり敏感になっているのが分かる。どんな対策で、どの程度、子どもたちに指導しているのか。
- (副課長) これから情報を精査していき、よい方法にしていきたい。小学生には防犯ブザーを配っているのでもう持っているが、保育園、幼稚園の子どもたちにはまだ配っていないので、あったらほしいということなのかと思う。
- (齋藤委員) 未就学の子どもは一人で出歩くことはない。また、子どもに防犯ブザーを持たせるとおもちゃにして鳴らしているため、本当に必要なときにいたずらだと思われてしまう。おもちゃ代わりにしてしまうぐらいなら、与えない方がよいのではないか。
- (菊井委員) おとなの人で、防犯ブザーを知らない人たちもいる。防犯ブザーそのものを知っていても、どういう音がして、どう扱うものなのか知らない人も結構いる。